

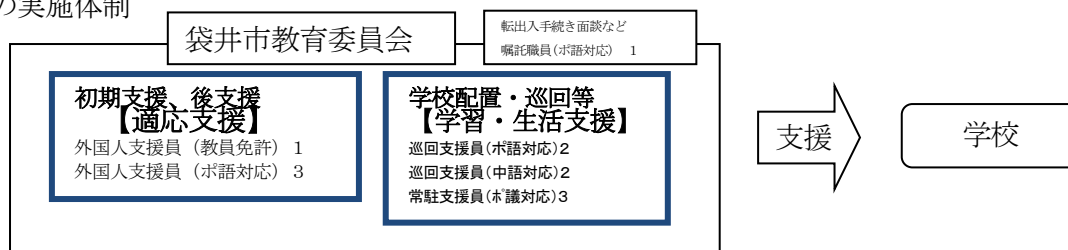
平成30年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【 袋井市 】

平成30年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制



2. 具体的取組内容

◎不就学外国人の子供への対応

◆電話連絡および家庭訪問

6月に不就学該当児童生徒の家に家庭訪問し、就学状況を確認する。

◎外国人児童生徒の日本語習得、学習習慣確立のための教室開設

◆初期支援教室の実施

場所：育ちの森教育関係事務所内 初期支援教室

参加者：年間38人（平成31年3月1日現在）

◆放課後日本語教室（TERRA-KOYA）

場所：空き教室（市内12カ所）

参加者：101人

◆夏休み学習室

場所：空き教室（市内11カ所）

参加者：62人

◎地域独自の活動

◆進路ガイダンス

対象：小学5年生から中学3年生の児童生徒とその保護者

内容：日本の教育制度（高校進学についてなど）

参加者：27人

◆入学ガイダンス

対象：平成31年度入学児童とその保護者

内容：日本の学校生活についてなど

参加者：70人

3. 成果と課題

今年度は平成30年8月末までに21人の不就学が疑われる外国人児童生徒宅を支援員が訪問調査し、このうち14人が外国人学校への就学をしていることが分かった。また、3人の外国人児童生徒が居所不明であったので、東京入国管理局へ入出国記録を照会したところ、すでに日本から出国していることが判明した。残りの4人については、就学をしていない状態であったので、就学するよう指導した。その結果、現在は、4人すべてが就学することができ、不就学児童生徒はいないという状況となった。このような状況も外国人支援員がいないとわからないことであった。

初期支援教室をはじめとした学習支援は、学習習慣が身についていない児童生徒にとって大変意義深

いものとなった。個別支援に近い状態での学習支援が可能となり、児童生徒にとっては学習のつまずきをその場で確認でき、学習方法のアドバイスをもらえるなど児童生徒にとって安心感がえられる活動となった。

進路ガイダンス、入学ガイダンスは保護者にとっても児童生徒にとっても、日本の学校、日本の社会では何が必要かを知る大切な機会となった。また、同じ年齢の児童生徒をもつ保護者の情報交換の場となっていることもあり、大変有意義なものとなった。

外国人児童生徒の増加に伴い、益々支援のニーズは高まり、多様性を帯びてきている。言語によるつまずきであるのか、特別支援が必要なのかなど児童生徒の表れからわからない状況もあり、多くの支援員が必要である。人材の確保が急務である。

4. その他(今後の取組等)

袋井市としては、平成31年度は、外国人児童生徒の増加に伴い、初期支援の支援期間を4週間から12週間に拡大するとともに、相談員を1人増員する。また、保護者による送迎ができない外国人児童生徒に対しては、タクシー(一部保護者負担)で送迎をし、初期支援の一層の充実を図る。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。)